



デジタル・
アーキビスト

専門家養成の現状解説

岐阜市

岐阜女子大が報告会

デジタル・アーキビストの養成カリキュラムに取り組み岐阜女子大学の研究会が十一日、岐阜市明徳町の同大文化情報研究センターで開かれ、大学関係者ら約百二十人が参加して、文化情報処理におけるデジタル・アーキビストの役割について考えた。

同大は、二〇〇四(平成十六)年度に文部科学

デジタル・アーキビストの今後の課題などを討論したシンポジウム「岐阜市明徳町、岐阜女子大学文化情報研究センター

省から現代的教育ニーズを取り組み支援プログラムの選定を受け、デジタル表現の資料を的確に管理、活用する専門家の養成を行っている。今回は三年間の取り組みの最終報告会として、シンポジウムなどを開いた。

報告会では、養成の現状を同大の谷口知司教授が解説。シンポジウムでは、今後の課題について、社会教育や企業、メディアの立場から関係者が意見を交わし、「これから図書館は情報拠点を目指すしており、デジタル・アーキビストの養成は、社会教育にかかわる職員に求められる資質の一つとなっていく」などと話した。